

# 園長だより

2023年(令和5年)9月11日  
道上幼稚園長  
第5号

園庭の草花も夏の花から秋の花に変わりつつあります。子どもたちにとっては、植物が花から実へと変わり、種が収穫できることは楽しみなことようです。

C: ねえ、ひまわりのたね、何個くらいあるかなあ？

C: このふわふわの白いの何？

C: ふわふわの中に何か黒くてかたいものがあるよ！

C: ふうせんかすらを振ったら音になるんでえ

C: みどりののは、まだあかちゃんよ。じゃけえとったらいけんよ！

子どもたちは、園庭でひまわり、ふうせんかすら、あさがお、せんにちこう、わた、コスモス、マリーゴールド、もみじ…などいろいろな種を見つけています。

私もあらためて、たねっておもしろそうだなあと思い、調べてみると…知ってるようで知らない事がたくさんありました。



## たねの不思議

植物の種というと何をイメージするでしょうか？子どものころ咲かせた朝顔、スイカを食べる時にじゃまだなあと感じる黒い種、ひまわりやかぼちゃの種…でももっと身近な種があるそうです。それがお米。稲という植物の種がお米だそうです。また大豆も種で、未熟な種を茹でて食べるのが枝豆、かたくなった種・大豆からはどのおうちでも常備されているみそやしょうゆ、豆腐も作られています。菜種からとれる油、トウモロコシは種を食べたり、油をとったり、ゴマやナッツも種…よく考えると、様々な種のおかげで私たちの食事は豊かなものになっているんだなあと感じます。

そもそもあんな小さな種から、どうやって生長していくのか？簡単に言うと、種の中に体づくりのための材料(デンプン、脂肪、タンパク質など)、体の作り方(情報)(DNA)、工作道具(酵素など)が詰め込まれていて、そこに太陽や空気のエネルギーが作用することで、芽生え、成長するのだそう。それらが詰め込まれるまでには、40億年近くかかって進化していく歴史を辿っているそうです。そう思うと子どもと一緒に見ている種を感慨深く見ているこの頃です。

## とんぼ

C: 見て見て、とんぼの羽根ってこんなもようがある！

C: 足は1,2,3…6本！ギザギザがあってガツとなるから痛い！

C: 目はなんか緑！怖！

C: 口はクワガタみたいにガツとつかめるようになってる！

C: おしりの先っぽもはさみみたいになって動いとる！…

…子どもたちといっしょに虫メガネで見ていると、  
本当にトンボの観察っておもしろい！

図鑑で調べる子、絵にかいてみる子、トンボを制作する子  
またまたトンボを捕まえに行く子…秋の園庭は、子どもたちにとって  
おもしろいことの宝庫です！

子どもたちって実はすごいことを発見しているのだとつくづく思うのです！

